



1 研究テーマ

住宅に囲まれた「天神森」の環境への役割について

2、研究の動機

昨年と今年の研究の方針の違いを明確にすることで、
昨年の研究を踏まえての研究を進めることができると考えた。

〈昨年〉【他（世界）を知り天神森を見る】

世界と比較するなどしてある一定の基準をもってしてそこから天神森を考えていった。
→天神森の相対的な立ち位置を把握する研究であった。

〈今年〉【相対的な立ち位置から今一度戻って、

天神森を改めて見ることで天神森の在り方を探る】

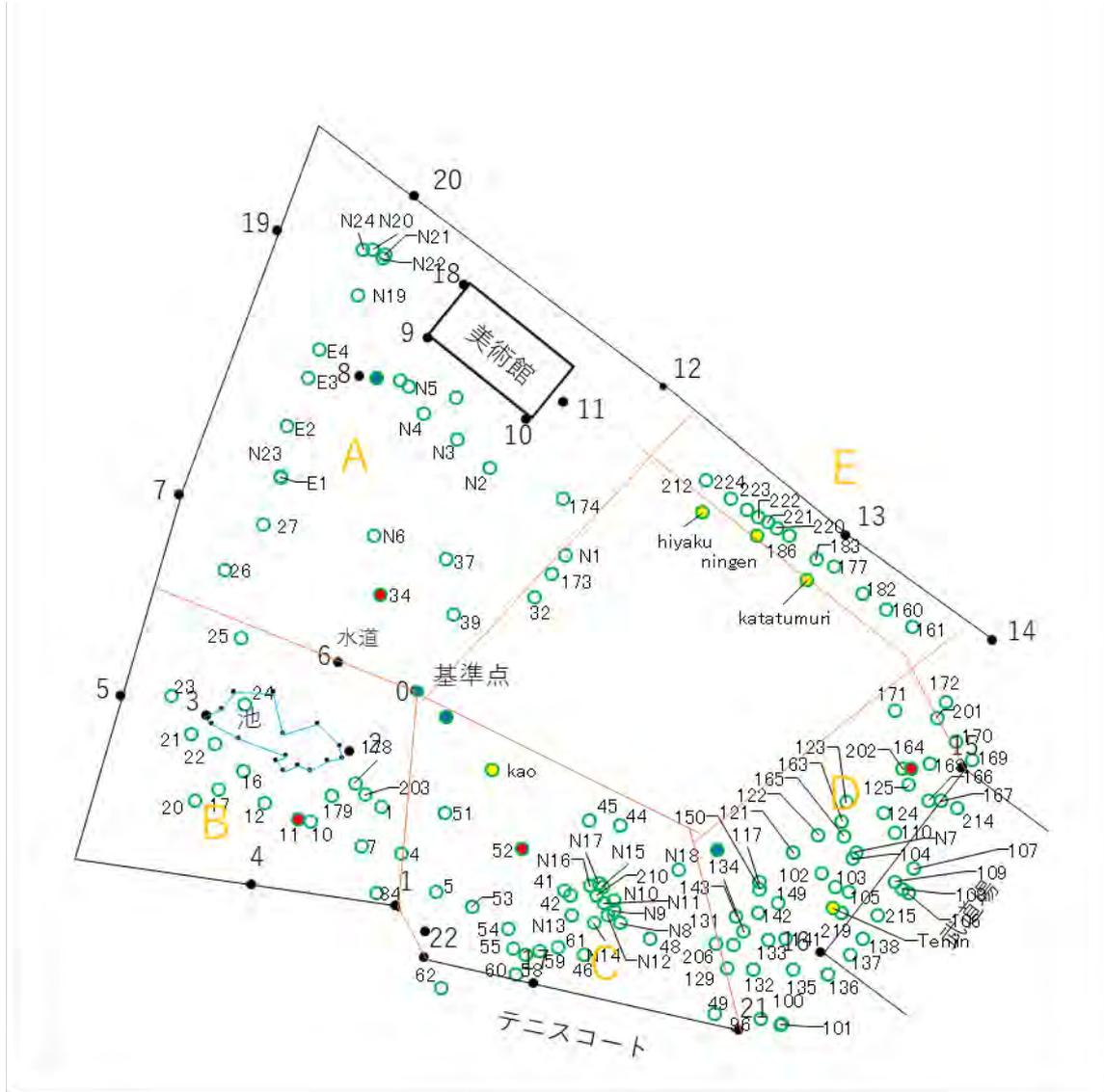
→天神森を絶対的な視点をもとに考えていく。改めて天神森そのものをさらに詳しく見ていくことで、昨年の研究を踏まえ、1つの森として天神森が具体的にどう在るのかを知るだけに留まらず、これからの森の様々な可能性に幅を持たせていく意味でも天神森の環境への役割について考えていくことにした。また天神森の浮かび上がってきた機能はいかにして、役割として果たされていくのかという観点からも考えていきたいと思う。



〈写真1〉天神森をドローンで空撮（協力：須山建設）

3、研究の方法と結果

今年度はより天神森に迫っていくために、天神森をさらに以下のA～Eのエリアに細分化して研究を進めていくことにした。

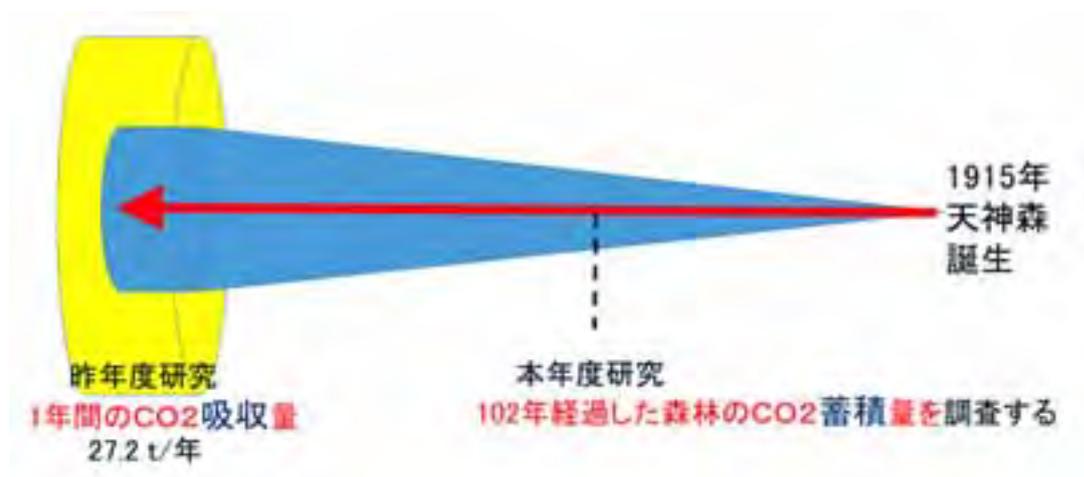


(1) 二酸化炭素蓄積量班

昨年度の研究では、天神の森全体が1年間で吸収するCO₂吸収量を、広葉樹と針葉樹のそれぞれについて太さの階級別に本数を計数して推定する方法（環境省が教育用に公開している方法「子供葉っぱ判定士」）で調査を行い、1年間で二酸化炭素を森がどのくらい吸収しているかが分かった。

27.2 t/年 樹木の本数151本 理科自由研究2016 p.9, p.16より

	木の本数 (本)	CO ₂ 吸収量 (t)	面積 (ha)	ha当たりのCO ₂ 吸収 量 (t/ha)	木の密度 (本/ha)	一本当たりのCO ₂ 吸収量 (t)
天神の森	151	27	0.531	51	284	0.18



〈図1〉 2016年・2017年研究イメージ図

〈今年度の研究でできること、目指すもの〉

今年度の研究では、1915年天神森誕生以来102年間で、樹木1本1本が空気中の二酸化炭素中の炭素を光合成で吸収したり、呼吸で放出した結果、現在はそれぞれの樹木が体の成分として二酸化炭素をどれだけ蓄積しているのか、その蓄積量を推定する。またそれによって、漠然とした各エリアのイメージをより明確にした上で、これからのビジョンとなる理想の森の像を立てていく。

計算の仕方については、天神森に生育する樹木一本一本を附属浜松小・附属浜松中理数クラブのメンバーで樹木の胸高直径と樹高を測定していき、その値をもとに IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change 気候変動に関する政府間パネル) で使われている次項A式(※1)に当てはめて(その木が蓄えている二酸化炭素量)を計算していく。

研究の手順

- 1、基礎データをもとに樹木のCO₂蓄積量を測定。
- 2、エリアの特徴付けを行う。
- 3、これからの天神森を考えるため、理想の森を考えていく。

※1 IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change 気候変動に関する政府間パネル) では、以下のA式に森林の成長量と伐採量を加味して、森林によるCO₂吸収量の変動を評価している。

1本当たりの炭素蓄積量は、下式で計算。

$$\text{炭素蓄積量} = \text{幹材積} \times 2 \times \text{拡大係数} \times 3 \times \text{容積密度} \times 4 \times \text{炭素含有率} \times 5 \dots (A)$$

※2 幹材積：樹木の幹部分の体積。様々な計算法がある。最も簡易な計算法は、幹を円錐に近似して計算する。

$$\text{幹材積} = \text{半径}^2 \times \pi \times \text{樹高} \div 3$$

※3 拡大係数：幹材積に対する幹、枝、葉、根からなる樹木全体の体積の比。

針葉樹：1.7 広葉樹：1.8

※4 容積密度：樹木の体積1m³当たりの乾重量（乾燥した状態の重量）

樹木全体：0.45 t/m³ 針葉樹：0.37 t/m³ 広葉樹：0.49 t/m³

※ 種類によって差が大きいため、種類ごとに計算。

主な樹木の容積密度 (t/m³)

スギ 0.32 ヒノキ 0.34 モミ 0.42 アカマツ 0.41 クロマツ 0.45

クスノキ 0.42 ヤマザクラ 0.46 モチノキ 0.62 ブナ 0.51

ホオノキ 0.39 イタヤカエデ 0.52 シラカシ 0.67 ウバメガシ 0.79

クリ 0.47 クヌギ 0.68 シイ 0.47 コナラ 0.62

ケヤキ 0.49 ヤマグワ 0.49 イヌエンジュ 0.54

※5 炭素含有率：乾重量当たりの炭素含有率。

樹種による差は小さいため、樹種に関わらず0.50

A式で計算した炭素蓄積量をCO₂量に換算するには、下式を使う。

$$\text{二酸化炭素量} = \text{炭素量} \times 44/12$$

樹木の幹部分の体積・様々な計算法があり、ここでは、林業技術センター普及班が公開している方法を参考に、下式で計算した。

$$\text{胸高直径} \times \text{胸高直径} \times \text{樹高} \times \text{係数} (0.35)$$

今年度の研究では、樹木1本あたりのCO₂蓄積量の測定・分析を行う。

また、これらの調査と並行して木一本一本のデータも測定している

詳細データは冊子後ろに記載しておく。

【基礎データ収集の様子】



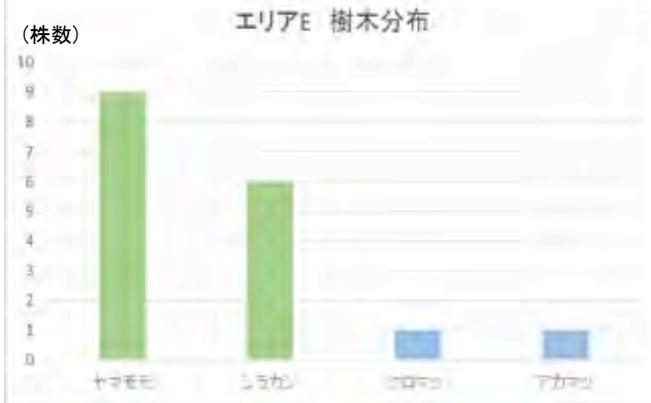
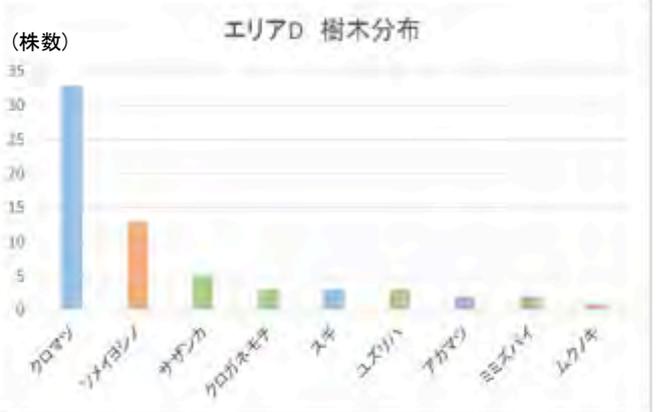
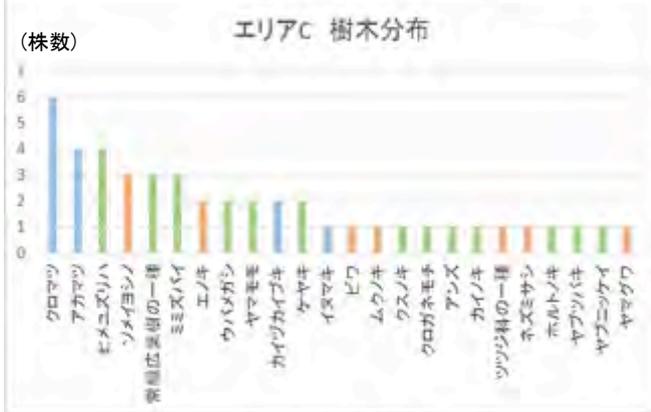
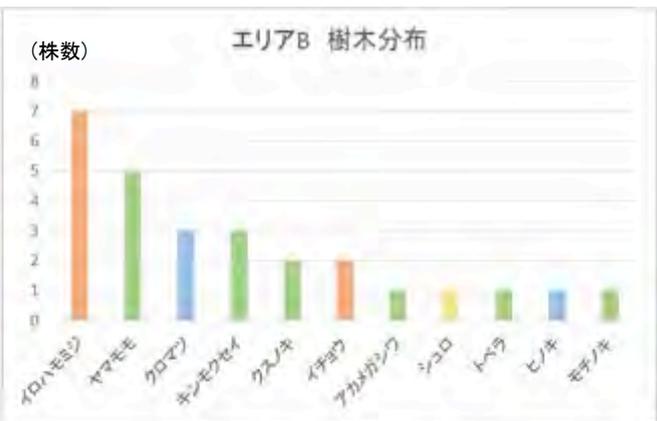
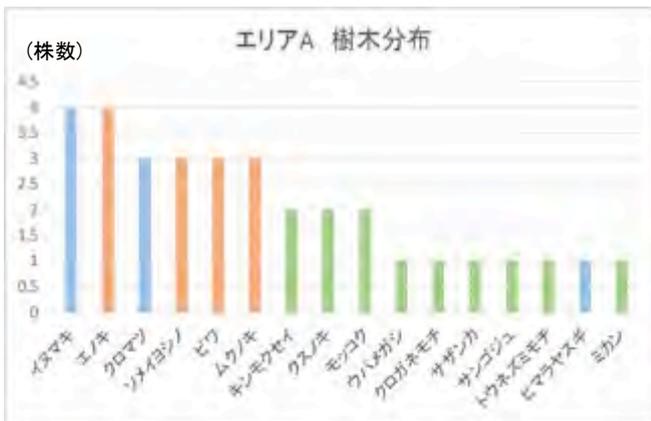
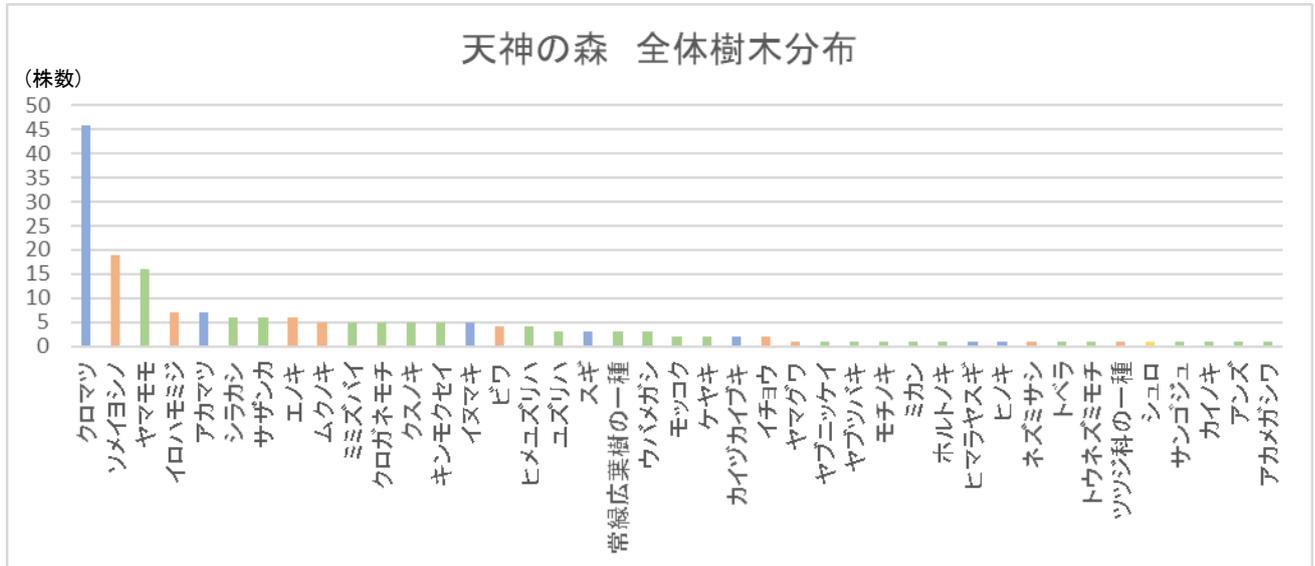
〈写真2〉樹木の胸高(1.3m)直径の測定



〈写真3〉樹木の高さの測定

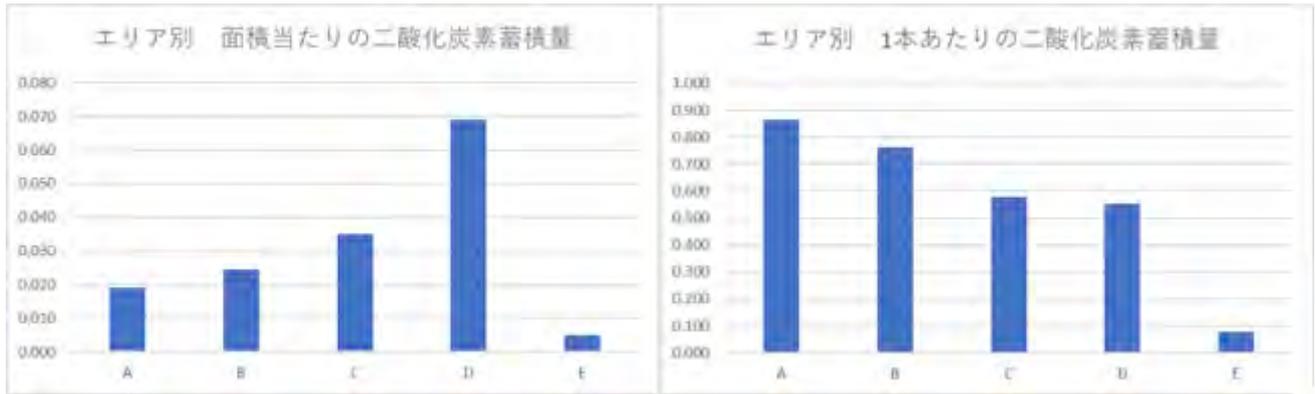
〈結果の整理〉

観測結果を、エリア別に分けまとめていく。(測量結果は資料、二酸化炭素蓄積量に掲載)



- : 針葉樹
- : 落葉広葉樹
- : 常緑広葉樹
- : ヤシ

※同株のものも1個体としてカウント。



(各エリアの現状) ※資料集：二酸化炭素蓄積量より

エリア A

炭素蓄積量

- ・一本当たりの蓄積量が最も多い
- ・面積当たりの蓄積量は2番目に少ない

分布

- ・突出した優占種がなく、多様性はエリア C に次いで高い。
- ・エリア C、エリア D に比べると高木が少なめである (9 本)。
- ・かなり開けたエリアである。

エリア B

炭素蓄積量

- ・一本当たりの蓄積量はエリア A に次いで多い。
- ・面積当たりの蓄積量はエリア A に次いで少ない。

分布

- ・松が一直線に生えているところから、植林されたエリアであると考えられる。
→池の周りにイロハモミジやイチョウなど、紅葉 (黄葉) する木が集中的に配置されていることからそうであると考えられる。
- ・多様性はエリア A よりやや低い。
- ・優占種はイロハモミジ。

エリア C

炭素蓄積量

- ・本数に対して一本当たりの蓄積量が少なめ (若い木が多いと考えられる)

分布

- ・もっとも多様性の高いエリア。
→静岡大学教育学部の小南陽亮教授によると、このエリアに生息しているホルトノキ、

ミミズバイ、ヒメユズリハなどは植林されたものとは考えられず、鳥に運ばれたタネに由来する可能性が高いという。特に、ホルトノキは県内でも大きな神社などにしか生息例がない木である。これは、里山化への兆しであると考えられる。

エリア D

炭素蓄積量

- ・一本当たりの蓄積量は平均的。
- ・面積当たりの蓄積量は突出して多い。

分布

- ・もっとも密集しているエリアである。
- ・階層がくっきりとできている。
→若い木の成長が阻害されていると考えられる。
- ・優占種はクロマツ。
→エリア D 全体の約 50%を占めている。そのため、多様性は低くなる。

エリア E

炭素蓄積量

- ・一本当たりの蓄積量が最も低い。
- ・面積当たりの蓄積量も最も低い。

分布

- ・エリア D 同様密集しているエリアではあるが面積当りは少なくなっている。
→ただ密集しているのが良いだけではなく、木一本当たりの能力の考慮も必要。
- ・樹種の少なさ、木の配置を見ても植林であることは明らかである。
- ・多様性は最も低い。

>>> これらのエリア別特徴を一言にまとめ、考察の材料としていく。

- A 大木がまばらにある都市の大規模な公園
- B 学校などによく見られる池を中心とする小庭園
- C 動物が運んだタネに由来する多様性の高い里山の森
- D 遠州灘の松林
- E 道路の並木

(考察の準備)

ここまでの観測の整理によって天神の森がどのような形で地域に役立っているのか明らかになってきた。その上で天神の森がどのような森を目指していくべきかを見つけていくため、まず今年度は理想的な住宅地の森の姿について考えていきたいと思う。

○観点

今回、理想とされる住宅地の森を考えていくために2つの視点を用意した。

1、「敷地面積に対し、炭素蓄積効率の良い森であるか」

2、「持続可能な森であるか」

どちらも住宅地の中にある森としては非常に重要な視点だ。人の多いところにあるうえに、広大な敷地の確保が難しいことが想定できるためである。さらには、地域の生態系の核となるのだから、一過性な存在となってはいけないということも考えなくてはならない。管理の面や周辺的生活環境からみても、持続可能な森を目指すことが重要である。これらをまとめたのが、今回の2つの視点だ。

○具体的方法

視点1より、面積当たりの炭素蓄積量が突出して優れていた**エリアDをベース**とし、その問題点や改善されるべき点を視点2から他のエリアとの比較で探していく。

〈考察@二酸化炭素蓄積量班〉

まずは、今現在判明しているエリアDの問題点から見てみようと思う。

エリアDの問題点

- ・高木と小高木の差が大きい。
 - 写真の通り、階層がはっきりとできている。
 - 若い木の成長が阻害されているため、我々の目指す「持続可能な森」とは言えない。



(株)須山建設様ご協力

他のエリアから得た観点は、以下の通りだ。

- ・エリアEより、密集しているだけで蓄積効率が上がるとは言えない。木一本当たりの能力も考えていかななくてはならない。
 - 人の支配下にある森として、実態の把握ができることも重要だ。そのような視点から考えても、密集していることは避け、ある程度のスペース確保が必要。エリアDの問題点である成長の格差の解決にもつながってくるだろう。
- ・全体でみると、小高木の蓄積量は、高木のそれにはなかなか及ばない。
 - しかし、小高木には成長が期待できる。高木メインの森は、即戦力となるが、どうしても上限の見える森となってしまう。持続可能な森を目指すのであれば、今現在の効率を重視するべきではないのかもしれない。とすると、若い木の成長が望める森、というのは大切なはずだ。
- ・エリアCのような里山化しつつあるエリアは少ない。人の手が入る状態ではある程度生態系をリードしていく存在が必要なのかもしれない。
 - それならば敢えて優占種の台頭を進めていくことも有用なのではないだろうか。本来自然の中では優占種という存在はないことが理想とされているが、住宅地の中にある森としては、これも一つの手立てなのかもしれない。

これらのことをまとめると、3つのキーワードに絞ることができた。

◎密集することが必ずしも蓄積効率を良くしているわけではない。成長の幅を持たせることや、管理のしやすさのためにも、ある程度**スペースに余裕を持たせる必要がある**。

◎将来性を持たせるため、**若い木の多い森**である必要がある。

◎**優占種の台頭**も、住宅地の森においては生態系の形成の促進に有用となる可能性がある。

来年度は、これらの考察をもとに、天神の森にとって最良の、さらなる展望を考えていけたらと思う。

(2) 動物班

2年前に天神森の白地図ができてきたことにより、これまでタイワンリスが天神森にいたのを見かけたとか、カブトムシが、カマキリがという声を聞いていたが、白地図を基に樹木ナンバーの何番の木から何番の木に何時頃移動していたのか、その周りに木の実があるのか、動物が発する赤外線に反応して撮影する自動撮影カメラを使って、天神森のどんな環境をどんな動物が利用しているのかを観測していく。

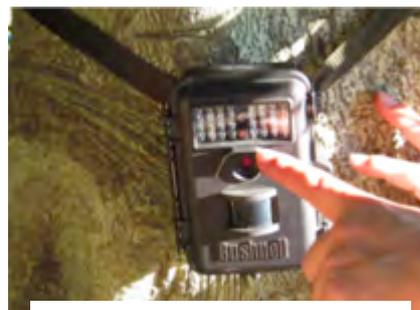
〈研究の手順〉

1、野生動物調査機器(暗視自動撮影カメラ)の設置位置を決める。(試し撮り)

2015年8月、天神森の中の池周りに夜、動物が集まってくるのではないかと予想し、樹木ナンバー16番の木にカメラをとりつけ、1週間撮影を行った。



〈写真 4〉樹静岡大学からお借りした暗視カメラ



〈写真 5〉樹木に取り付けた暗視カメラ

2、2015年9月～2016年8月まで、天神森の白地図をAからEの5つのエリアに分け動物の出現場所の全体的な特徴をつかむ。

3、2の結果で池の周りに動物が多くいたため、2016年9月から2017年8月まで、次項下段の図の通りにカメラを設置して観察を開始する。

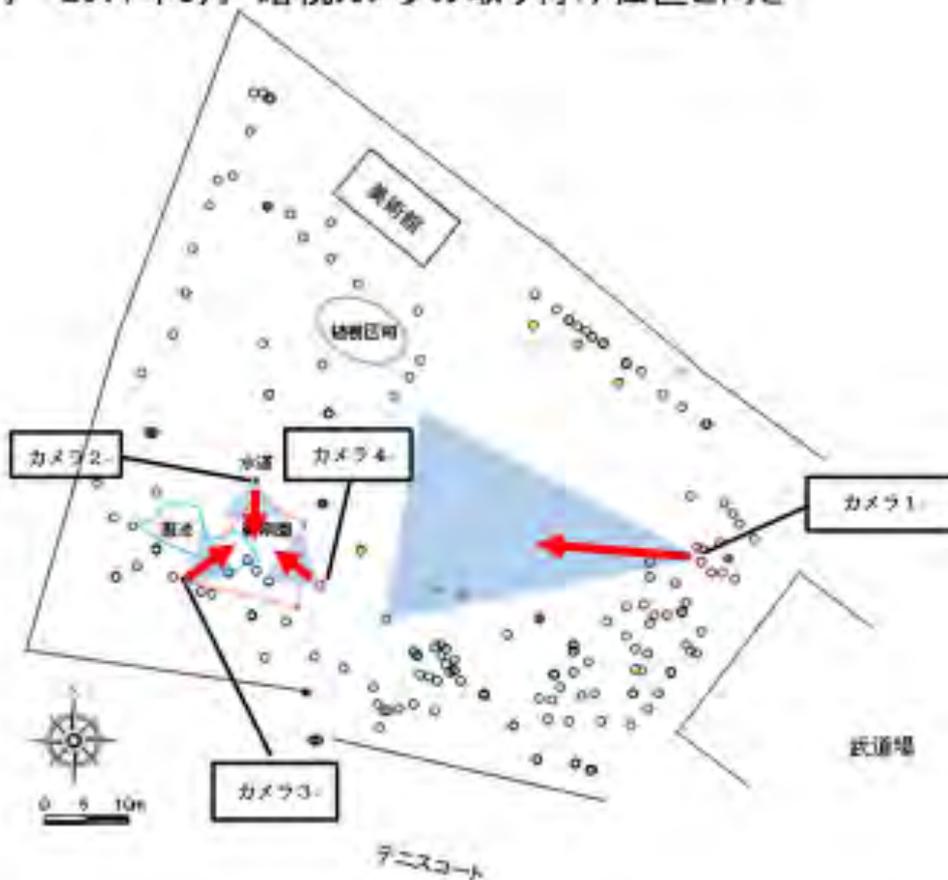
次の図のように天神森のおおまかな動物の出現場所を特定できるようにカメラの撮影範囲を決めて観測を開始した。

図2 2015年9月～2016年8月までの自動暗視カメラ設置位置
2015年9月～2016年8月 暗視カメラの取り付け位置と向き



研究手順3

2016年9月～2017年8月 暗視カメラの取り付け位置と向き



〈結果の整理〉

自動撮影カメラを使った動物の観測

① 野生動物調査機器(暗視自動撮影カメラ)による試し撮りの結果

私たちが、普段動物を目にするのは、昼間ですが、木の上の方にはタイワンリスが行き来するのを見かけていましたが、ここ附属浜松中学校の周りは住宅に囲まれた環境なのに夜間は見られない夜間に活動する夜行性の動物たちも多数存在することがわかってきた。



〈写真 6〉暗闇の中撮影した暗視カメラによる動物(ホンドタヌキ)

② 2015年9月～2016年8月まで、天神森を白地図をAからEの5つのエリアに分け動物の出現場所の全体的な特徴は、・・・・・・・・



しかし、このままでは天神森にどのような生物がいるかわかりにくいため、一目でどのような生物がいるかわかるように、表に移しなおした。

	確認済みの種
鳥の仲間	ハシボソカラス
	ムクドリ
タヌキ	ホンドタヌキ成獣
	ホンドタヌキ幼獣
ネコの仲間	シロネコ
	シマネコ
	ハクビシン

測定に使っているカメラは、動物が発する赤外線に反応し、昼夜問わず動物を撮影することができるため、昼と夜の違いを見ることが出来た。

猫の中では白猫のみが、昼夜問わず出没したが、その他のシマネコ、ハクビシンは夜のみ、出没した。しかしタヌキは多く出没したが、ほとんどのタヌキが夜に出没した。またタヌキは幼獣が多かった。

ある測定場所で、石の上にカラスがいたのだがそこへ、2匹のカラスが入ってきたその後、ケンカのような素振りをしたのち2匹のカラスが石から出て行った。推測になるが、それが縄張り意識なのだと感じた。
まずは天神の森全体の動物の生態を把握できるように仕掛けたカメラで観測をしていったがその中で映った代表的なものを紹介する。

○観測で見つかった代表的な動物達↓



ニホンダヌキ成獣



ニホンダヌキ幼獣



シマネコ



ハクビシン



タイワンリス



キジバト



ドバト



ハンボソガラス



ムクドリ

観測をして上記の動物がカメラに映り、天神の森にどんな動物がいるのかがある程度わかった。そこで、上記に映った動物たちが天神の森で何を食べているのか、どこを通り道にしているかなど、天神の森に来る用途・動物たちの生活・活動が詳しくわかるようにその一歩として、動物班全員で動物の様々な痕跡（フィールドサイン）を調査することとした。

〈観測結果〉

動物班全員で天神森の動物の痕跡（フィールドサイン）を調査した結果

Aエリア

- ・動物の食べそうなものを調べた（解剖）
 ギンナン 飛ばされていた
 種子が大きかった
 においが強烈だった
 食べかけのものが多くあった
 穴と種子だけのものがあった
ヘビイチゴ 人間は食べられないけど中身はおいしそうだった（食べられそう）
- ・獣道があった
- ・よく動物が出る岩に上下に穴の開いたギンナンがあった（中は空洞）
- ・池に虫が多かった。排泄物があるのでは？
- ・穴、食料、水が多く動物たちの楽園的場所ではないか？
- ・池の水は飲めそうもなかった。

Bエリア

- ・まつかさの食べかすが散乱していた。リス科の動物の食糧となっているかもしれない。
- ・まつかさやギンナンが大量に落ちていて、臭かった。そこには小さな穴や排泄物があった。
- ・ギンナンの木と池があるBエリアに動物が多い理由は、まだ人が踏み入れていなくて、日陰が多いということが、関係していそう。
- ・池の中に果実を食べたあとがあった。
- ・切りかぶに爪をといた痕が残っていた（ボロボロ）
- ・池のあたりは地面が柔らかい。

Cエリア

- ・気に穴が開いていて穴の下は皮がむけていた。
- ・枯れ葉がたくさん落ちていた。
- ・動物の住処らしき穴があった。
- ・リスとカラスがいた。
- ・木の種類によって葉の数が違う。
- ・紅葉があった。

Dエリア

- ・食べかけのキノコが腐っていた。かなり時間がたっていると思われる。
- ・なにかのフンがあった。草がかけてあったので、なにかのトイレではないか？
- ・食べかけの木の実があった。
- ・獣道があった。笹が倒れており、人が通れるくらいの広さだった。キノコがはえていた。食べられてはなかった。なぜだろう？

全体

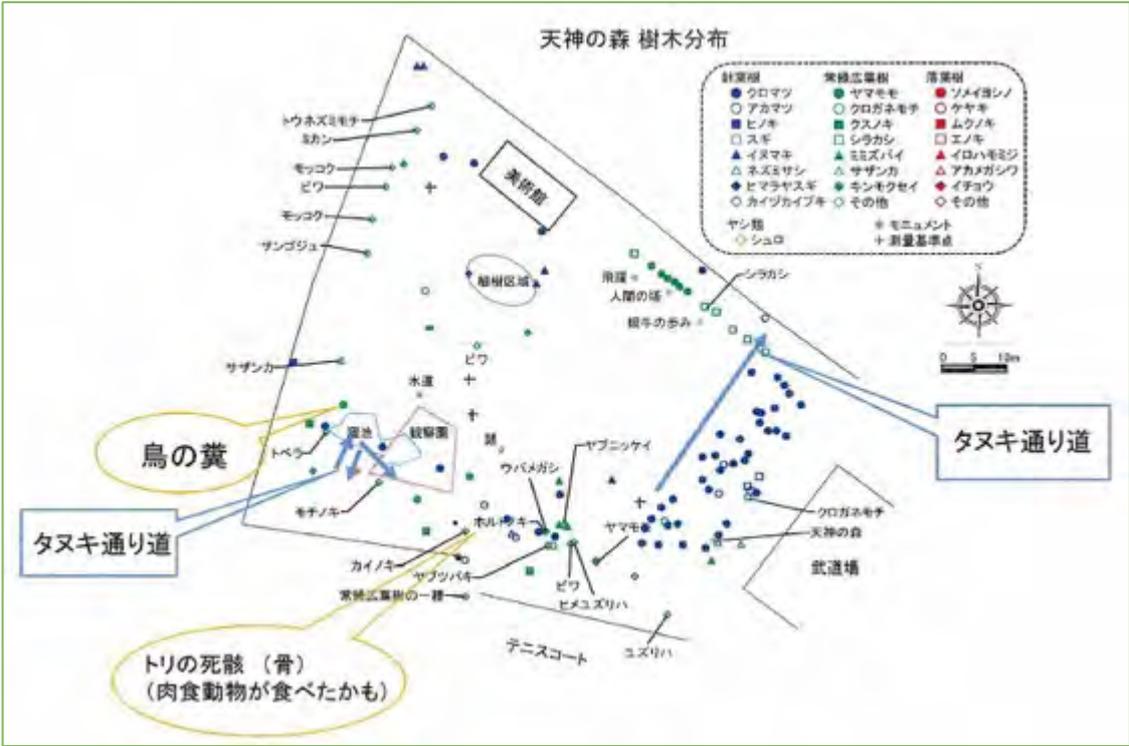
- ・ヘビイチゴ、ドングリ、木の实、キノコ、まつかさ、バッタやキリギリスなどの虫のような動物の食糧となっていそうなものがたくさんあった。
- ・木の上に鳥の巣らしきものが2つ以上あった。
- ・リスが3匹ほどいた。

③ ②の結果で池の周りに動物がよく出ていたため、2016年9月～2017年8月まで池の周りに集中的に暗視カメラを設置して観察した結果。

前回に続いて何匹かの親子タヌキが見つかった。しかし、その他にも、一台だけ、天神森の中心近くにある広場の広範囲を撮影したカメラに移動する2匹のたぬきが映った。

カメラで撮影された二匹のタヌキの歩いた方向をたどっていくと隣接する学校法人大学とのフェンスのところに穴が開いていた。そこからタヌキは、天神森を通り道にしていることとそのルートが判明した。

下図が今回の調査で分かったことをまとめたものである。前に書いたタヌキの通り道と思われる穴と下の写真の2匹のホンダタヌキ。このホンダタヌキ達は追いかけており、年齢差も確認できタことから、親子であると推測される。



B エリアから C エリアに移動する二匹のホンダタヌキ



ホンダタヌキの成獣



ホンダタヌキの幼獣

(※タヌキの幼獣は、尻尾から背中にかけて黒い線が入っている。)

今年のフィールドサインの調査結果

Bエリア

- ・大イチョウ、クスノキ、モチノキなどの大木に覆われている。
- ・ヤマモモ、ギンナン、マツボックリなどの木の実があり、動物の食糧となっている。
- ・バッタ、カブトムシ、セミがいっぱいいて、カラスなどの鳥の食糧になっている。
- ・削れているまつかさや、木の実がたくさんあった。中身が入っているものは少ししかなかった。リスがたべたのでは？
- ・ヤマモモの木の周りに鳥のフンがあった。ヤマモモを食べたのでは？
- ・ギンナンのたべかすがあった
- ・木や葉にセミの抜け殻がたくさんあった
- ・草むらに色々な種類のバッタがはねていた

Cエリア

- ・小さな鳥がいて、肉食動物などの食糧になっている
- ・去年、穴が発見されていたが、今年Eエリアでも穴が発見され、タヌキの抜け道になっている可能性が高いことが分かった。
- ・木の実などをつける植物や、昆虫、それを食べる鳥、その鳥を食べる肉食動物やその食べ残しを食べるカラスなどがいて、食べる食べられるの関係の食物連鎖が見られる。
- ・樹木No, 51のヤマモモに約5mmのアリが行列を作っていた。列は根元からずっと上の方まで続いていた
- ・樹木No, 52の後ろに鳥の翼と、足のあたりの骨がばらばらになって落ちていた
- ・樹木No, 52のケヤキにセミの抜け殻が大量についていた。上の方の枝にはセミの抜け殻が3段くらいに重なってついてた
- ・カブトムシの角の部分が落ちていた



キノコの仲間



マツボックリのかじった跡



トリの巣跡



トリの巣



ヤブヘビイチゴ



ドングリ (シラカシ)



カリンの果実



ミカン



天神森からの抜け道



ハチの巣



クスノキの果実



獣が爪を研いだ跡



イチョウの果実（銀杏）



トリの羽と死骸



ハシボソガラス

上記の痕跡の中で、

・ヤブヘビイチゴ：ヘビイチゴより大きく、春から初夏とヘビイチゴより果期が長く、果実が少ない季節に、果実を好む動物にとっては貴重な食べ物になる。

・クスノキの果実：天神森のクスノキは、たくさん実をつけている。鳥やいろいろな動物が食べていると考えられる。

・カリンの果実：おそらくカラスが運んできて、つついて食べた痕と思われる。カリンは生のままでは硬くて美味しくないため、ちょっとつついて、やめたのかもしれない。

・ドングリ（シラカシ）：北側の並木のシラカシは、まだ若いがたくさん実をつける。タイワンリスがこれを食べる可能性がある。

〈考察@動物班〉

3年前にできた天神森に隣接する武道場によって日陰ができ、動物たちのけもの道になっている可能性がある

今後暗視カメラを使いけもの道説を検証したい。

死体になってからは、雑食のカラスや、タヌキが食べたかもしれない

昔は、豚の解剖後の内臓を、天神森に埋めていたが、それをタヌキが掘り返して食べていた。

ユズリハを、タイワンリスが食べている

タイワンリスが、エノキやセンダンなどの樹皮をはがして食べている

下から見ると、かじられた樹皮が落ちている

セミが、幼虫のときに穴から出てくるので、地面に穴がいっぱい空いている。

(セミが、樹液を成虫の時に食べている)

天神の森は、食物連鎖を陰から支えている

4、研究全体の考察

・ B, Cエリアに動物がいる。

→Cエリアは、多様な種類の木が生えている。

・ Cエリアに1本ある木 例 ビワ ホルトノキ ヤブニッケイ アンズ

●ビワ

Aエリアには、大きなビワの木がある。しかしCエリアには、小さなビワの木が一本生えている。

●ホルトノキ ヤブニッケイ アンズ

この天神森のCエリアに、一本だけしかない

→動物が外から持ってきたのではないか

【根拠】

天神森のBエリアとCエリアの間に、カリンの実が複数落ちていた。

・天神森にカリンの実は存在しない。

カリンは、空の動物（カラスなど）によって運ばれてきたと考える。

↓

動物が、他の所から実の種を持ってきていることの裏付けができる。

もし、人間が植えるなら、間隔を空けて植える。しかし、Cエリアは木が密集している。

・動物は森を変えている。

初めは人間が設置した森

↓

動物によって発展

相互共助の関係である

つまり、

森全体が、一つの生態系を担い、形成しているのである。

〈参考〉

天神森には、天神森ができた年月日を記す石碑があり、附属学校の記録も確認する中で、天神森が大正4年(1915年)4月にでき、現在まで祖父母・父母の世代への天神森がどんな森だったのか聞き取り調査した。以下はその結果をまとめたものである。

・附属中15回卒業生 鈴木(渥美)八重子

当時の天神森は、やぶが広がっていて、**獣がいたり、その死骸があったり**で人が入って、**遊んだりできない**ところでした。

・附属中35回卒業生 武藤隆是

手入れがされず、雑草だらけでした。人気も少なく遊ぶことはありませんでした。でも、**竹藪があり、そこにタケノコを採りに**行った記憶があります。今よりもうっそうとしていて、暗い感じでした。

・附属中35回卒業生 溝口 淳

基地を作って遊んでいました。**手入れはされていなくてジャングル**のようでした。

・附属中40回卒業生 高部光洋

天神森の池では、季節が来ると**蛙が卵を産み**それを見つれたり、畑ではジャガイモやサツマイモを育てたりしました。でもなんと言っても楽しかったのは書庫(現美術館)が僕たちの秘密基地で使われていました。(内容は秘密です)

・附属中45回卒業生 鈴木秀子

動物村でヤギを飼っていて、天神森まで散歩によく行きました。その途中で**ヤギが木の葉を食べたり**、天神森の雑草を食べたりしたのを覚えています。天神森では「**くらた祭**」で**使う野菜**も作っていました。

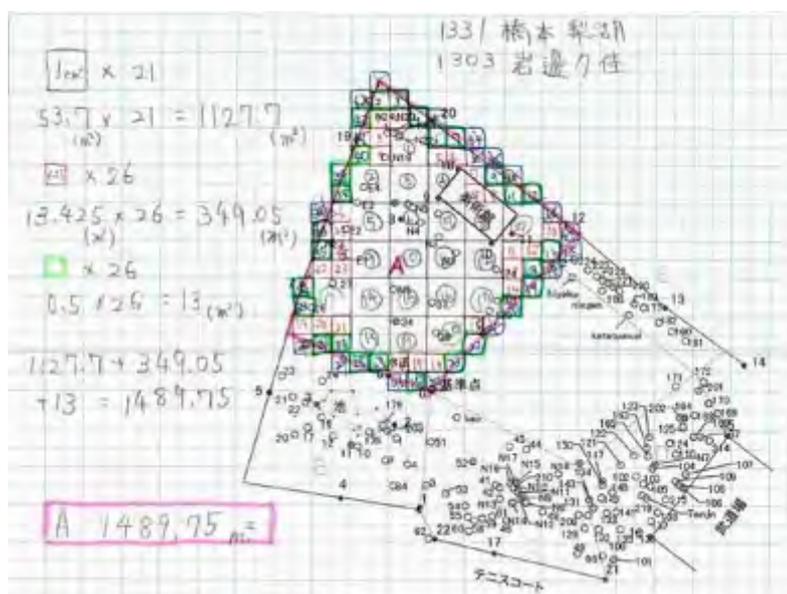
(上記の聞き取り調査から)

昔の天神森というのは動物だけが利用するような森であったが、人が森を手入れするようになってからは人と動物が共に利用する森へと変わってきた。これからの森はただ人が新たに利用するだけでなく動物にとっても、植物にとっても、人にとっても活かし合え、持続可能な森へとになってほしい。

資料集：二酸化炭素蓄積量

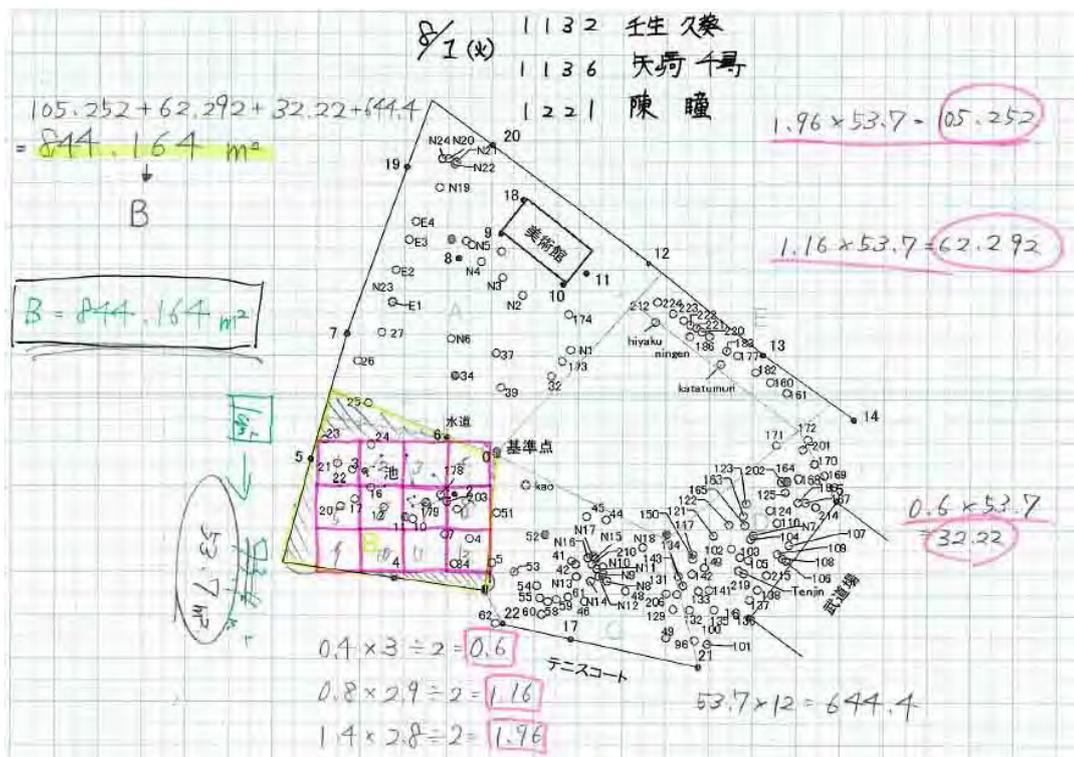
A エリア 二酸化炭素蓄積量とエリア面積

エリア	DataID	天神の森・樹木データ		位置(m)	樹種	常緑 落葉	広葉樹 針葉樹	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	二酸化炭素 蓄積量(t)	備考	高木/小高木
		テープ番号										
		東西	南北									
A	16	C 330	11.6	17.2	イヌマキ	常緑	針葉樹	16.4	5.7	0.0613		小高木
A	15	H 173	10.3	15.3	イヌマキ	常緑	針葉樹	19.3	6.4	0.0961		小高木
A	140	C 315	-8.1	49.8	イヌマキ	常緑	針葉樹	65.4	6.4	1.1050	雄株	小高木
A	136	C 314	-7.2	49.7	イヌマキ	常緑	針葉樹	38.3	9.5	0.5630	雄株	小高木
A	133	C 321	-13.5	36.0	ウバメガシ	常緑	広葉樹	48.2	6.2	0.8140	訂正	小高木
A	137	C 316	-6.0	49.2	エノキ	落葉	広葉樹	84.8	10.5	4.2750		高木
A	170	H 151	-20.5	8.5	エノキ	落葉	広葉樹	4.0	2.5	0.0023		小高木
A	171	H 152	-20.5	8.5	エノキ	落葉	広葉樹	3.2	2.5	0.0015	H151同株	小高木
A	139	C 324	-16.1	25.6	エノキ	落葉	広葉樹	28.3	5.5	0.2503		小高木
A	144	C 320	-10.6	39.6	キンモクセイ	常緑	広葉樹	1.6	1.7	0.0002		小高木
A	14	H 32	8.6	12.8	キンモクセイ	常緑	広葉樹	17.8	6.3	0.1140		小高木
A	147	H 33	-6.4	13.0	クスノキ	常緑	広葉樹	28.4	10.0	0.4580	H34同株	高木
A	25	H 34	-6.4	13.0	クスノキ	常緑	広葉樹	29.9	9.0	0.4560	動物カメラ8	小高木
A	24	C 331	-7.0	19.4	クロガネモチ	常緑	広葉樹	13.8	4.3	0.0463		小高木
A	17	H 174	11.3	23.2	クロマツ	常緑	針葉樹	24.2	15.5	0.3670	動物カメラ5	高木
A	23	C 325	-3.7	35.1	クロマツ	常緑	針葉樹	54.8	15.5	1.8800		高木
A	143	C 329	1.0	34.0	クロマツ	常緑	針葉樹	69.8	18.0	3.5400		高木
A	148	C 333	-20.3	8.5	サザンカ	常緑	広葉樹	1.6	2.5	0.0004		小高木
A	131	C 323	-16.2	25.5	サンゴジュ	常緑	広葉樹	4.7	3.2	0.0041		小高木
A	22	C 326	-2.3	32.2	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	25.1	6.8	0.2420		小高木
A	21	C 327	1.0	29.6	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	30.0	8.5	0.4330		小高木
A	20	C 328	4.2	26.5	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	52.2	9.1	1.4040		小高木
A	138	C 317	-6.2	48.8	トウネズミモチ	常緑	広葉樹	3.8	5.6	0.0046		小高木
A	19	H 37	0.0	16.8	ヒマラヤスギ	常緑	針葉樹	61.3	16.0	2.4350		高木
A	18	H 39	0.8	10.9	ビワ	常緑	広葉樹	19.5	8.0	0.1724		小高木
A	146	H 172	0.8	10.9	ビワ	常緑	広葉樹	14.9	8.0	0.1005	H39同株 ※6	小高木
A	145	H 40	0.8	10.9	ビワ	常緑	広葉樹	19.4	8.5	0.1830	H39同株	小高木
A	135	C 319	-8.6	44.9	ミカン	常緑	広葉樹	1.4	1.6	0.0002		小高木
A	57	H 26	-21.6	15.7	ムクノキ	落葉	広葉樹	41.6	14.0	1.3790		高木
A	56	C 332	-20.0	8.5	ムクノキ	落葉	広葉樹	68.4	16.0	4.2500		高木
A	130	H 27	-17.8	20.5	ムクノキ	落葉	広葉樹	63.2	17.0	3.8460		高木
A	134	C 318	-12.3	39.0	モッコク	常緑	広葉樹	3.4	2.4	0.0015		小高木
A	132	C 322	-15.5	31.0	モッコク	常緑	広葉樹	7.7	3.4	0.0116		小高木



Bエリア 二酸化炭素蓄積量とエリア面積

エリア	DataID	天神の森・樹木データ		位置(m)	樹種	常緑 落葉	広葉樹 針葉樹	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	二酸化炭素 蓄積量(t)	備考	高木/小高木
		テープ番号	東西									
B	43	H 203	-7.9	-8.2	アカメガシワ	落葉	広葉樹	37.0	10.4	0.8058		高木
B	26	H 1	-6.4	-9.5	イチヨウ	落葉	広葉樹	42.8	14.0	1.4500	H2同株、雌株	高木
B	158	H 2	-6.4	-9.5	イチヨウ	落葉	広葉樹	52.6	16.0	2.5000	動物カメラ3、雌株	高木
B	44	H 178	-8.9	-7.0	イロハモミジ	落葉	広葉樹	2.2	0.5	0.0001		小高木
B	151	H 15	-19.7	-5.7	イロハモミジ	落葉	広葉樹	16.0	2.0	0.0291	H16同株	小高木
B	45	H 179	-11.1	-8.4	イロハモミジ	落葉	広葉樹	4.2	3.1	0.0031		小高木
B	157	H 181	-11.1	-8.4	イロハモミジ	落葉	広葉樹	5.3	3.6	0.0058	H179同株	小高木
B	153	C 335	-19.7	-5.7	イロハモミジ	落葉	広葉樹	16.8	7.0	0.1119	H16同株	小高木
B	152	C 334	-19.7	-5.7	イロハモミジ	落葉	広葉樹	16.5	7.5	0.1155	H16同株	小高木
B	51	H 16	-19.7	-5.7	イロハモミジ	落葉	広葉樹	27.3	7.7	0.3260		小高木
B	150	H 19	-24.4	-8.9	キンモクセイ	常緑	広葉樹	0.9	1.8	0.0001	H20同株	小高木
B	149	H 18	-24.4	-8.9	キンモクセイ	常緑	広葉樹	1.9	3.0	0.0006	H20同株	小高木
B	50	H 20	-24.4	-8.9	キンモクセイ	常緑	広葉樹	7.3	3.0	0.0089		小高木
B	53	H 21	-24.8	-1.7	クスノキ	常緑	広葉樹	82.9	21.0	8.1717		高木
B	28	H 84	-6.8	-18.7	クスノキ	常緑	広葉樹	10.4	4.0	0.0248	多数萌芽・約70本	小高木
B	46	H 10	-13.2	-11.1	クロマツ	常緑	針葉樹	38.5	15.5	0.9280		高木
B	42	H 4	-4.4	-14.4	クロマツ	常緑	針葉樹	35.3	17.5	0.8840		高木
B	49	H 17	-22.1	-7.6	クロマツ	常緑	針葉樹	52.6	17.5	1.9578		高木
B	48	H 12	-17.7	-9.0	シュロ	常緑	ヤシ	24.3	3.3	0.1082		小高木
B	52	H 22	-22.5	-2.8	トベラ	常緑	広葉樹	8.1	3.2	0.0116		小高木
B	55	H 23	-26.8	2.3	ヒノキ	常緑	針葉樹	26.7	11.5	0.3318		高木
B	47	H 11	-14.4	-10.8	モチノキ	常緑	広葉樹	36.1	9.2	0.6780	動物カメラ4	小高木
B	54	H 24	-19.7	1.4	ヤマモモ	常緑	広葉樹	57.9	10.0	1.8994		高木
B	156	H 9	-8.2	-13.7	ヤマモモ	常緑	広葉樹	14.4	5.1	0.0598	H7同株	小高木
B	154	H 6	-8.2	-13.7	ヤマモモ	常緑	広葉樹	11.8	5.8	0.0455	H7同株	小高木
B	155	H 8	-8.2	-13.7	ヤマモモ	常緑	広葉樹	13.8	7.1	0.0762	H7同株	小高木
B	27	H 7	-8.2	-13.7	ヤマモモ	常緑	広葉樹	12.6	7.6	0.0682		小高木



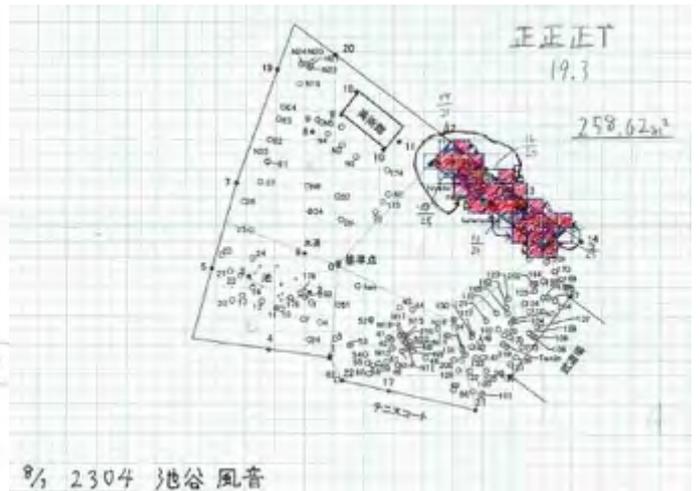
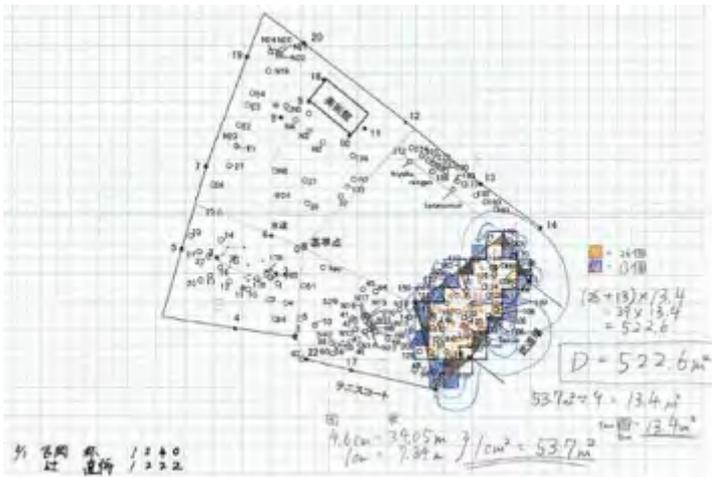
エリア	DataID	天神の森・樹木データ		樹種	常緑 落葉	広葉樹 針葉樹	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	二酸化炭素 蓄積量 (t)	備考	高木/小高木	
		テープ番号	位置 (m)									
			東西									南北
C	32	H 53	2.5	-20.1	アカマツ	常緑 針葉樹	56.0	14.5	1.8440		高木	
C	33	H 62	-0.5	-28.8	アカマツ	常緑 針葉樹	29.2	4.6	0.1580		小高木	
C	163	H 57	7.4	-25.2	アカマツ	常緑 針葉樹	22.5	7.6	0.1560		小高木	
C	159	H 63	-0.5	-28.8	アカマツ	常緑 針葉樹				H62同株、枯れ		
C	117	C 344	14.7	-19.4	アズ	落葉 広葉樹	10.2	3.5	0.0205		小高木	
C	126	C 345	22.0	-15.8	イヌマキ	常緑 針葉樹	22.1	8.4	0.1660		小高木	
C	124	H 42	11.5	-18.6	ウバメガシ	常緑 広葉樹	33.6	14.0	0.8952		高木	
C	125	H 41	10.8	-18.1	ウバメガシ	常緑 広葉樹	18.0	14.5	0.2654	H42同株	高木	
C	59	H 48	19.3	-23.2	エノキ	落葉 広葉樹	34.2	18.0	1.1920		高木	
C	36	H 58	7.7	-25.2	エノキ	落葉 広葉樹	20.1	8.0	0.1821		小高木	
C	175	H 50	25.6	-31.2	カイツカイブキ	常緑 針葉樹	12.7	5.5	0.0358	C294同株	小高木	
C	60	C 294	25.6	-31.2	カイツカイブキ	常緑 針葉樹	49.8	8.5	0.8510		小高木	
C	30	H 5	-1.0	-18.6	カキノキ	常緑 広葉樹	45.5	18.0	2.1000		高木	
C	38	H 59	9.0	-24.8	クスノキ	常緑 広葉樹	16.1	10.0	0.1462		高木	
C	164	C 338	12.7	-21.1	クロガネモチ	常緑 広葉樹	3.7	2.4	0.0019		小高木	
C	114	H 210	14.1	-18.5	クロマツ	常緑 針葉樹	32.0	14.5	0.6000		高木	
C	61	H 129	26.8	-26.3	クロマツ	常緑 針葉樹	47.7	16.0	1.4630		高木	
C	34	H 54	6.0	-22.4	クロマツ	常緑 針葉樹	49.9	17.0	1.7090		高木	
C	62	H 131	27.3	-23.8	クロマツ	常緑 針葉樹	47.7	17.0	1.5583		高木	
C	40	H 46	13.4	-25.3	クロマツ	常緑 針葉樹	52.2	17.5	1.9250		高木	
C	39	H 61	10.9	-24.4	クロマツ	常緑 針葉樹	50.6	17.5	1.8080		高木	
C	127	H 44	16.3	-11.1	ケヤキ	落葉 広葉樹	62.2	11.5	2.5120	動物カメラ2	高木	
C	41	H 52	7.5	-14.0	ケヤキ	落葉 広葉樹	49.1	16.0	2.1820	動物カメラ1	高木	
C	161	H 69	-1.0	-28.8	常緑広葉樹の一種	常緑 広葉樹	5.0	1.9	0.0026	H67同株	小高木	
C	162	H 68	-1.0	-28.8	常緑広葉樹の一種	常緑 広葉樹	6.5	3.8	0.0090	H67同株	小高木	
C	160	H 67	-1.0	-28.8	常緑広葉樹の一種	常緑 広葉樹				枯れ		
C	63	H 206	25.7	-23.7	ソメイヨシノ	落葉 広葉樹	12.3	2.0	0.0172		小高木	
C	183	H 127	22.8	-27.1	ソメイヨシノ	落葉 広葉樹	22.2	4.5	0.1250		小高木	
C	182	H 126	22.8	-27.1	ソメイヨシノ	落葉 広葉樹	18.8	6.5	0.1302	H127同株	小高木	
C	120	C 337	13.7	-21.5	ツツジ科の一種	落葉 広葉樹	1.9	2.3	0.0005		小高木	
C	35	H 55	6.6	-24.5	ネズミサシ	常緑 針葉樹	13.1	5.2	0.0359		小高木	
C	113	H 158	16.3	-21.5	ヒメズリハ	常緑 広葉樹	21.5	13.0	0.3430	H159同株	高木	
C	172	H 157	15.8	-20.2	ヒメズリハ	常緑 広葉樹	16.6	14.5	0.2260	H159同株	高木	
C	173	H 156	15.8	-20.2	ヒメズリハ	常緑 広葉樹	13.2	15.0	0.1480	H159同株	高木	
C	115	H 159	15.8	-20.2	ヒメズリハ	常緑 広葉樹	18.3	17.0	0.3220		高木	
C	118	C 343	15.1	-20.6	ビワ	常緑 広葉樹	1.2	1.7	0.0001		小高木	
C	165	H 43	11.2	-18.6	ホルトノキ	常緑 広葉樹	0.9	1.8	0.0001		小高木	
C	121	C 340	14.6	-17.7	ミズバイ	常緑 広葉樹	0.9	2.1	0.0001		小高木	
C	122	C 339	13.4	-17.6	ミズバイ	常緑 広葉樹	3.8	2.8	0.0023		小高木	
C	128	H 45	13.3	-10.6	ミズバイ	常緑 広葉樹	4.2	4.5	0.0045		小高木	
C	37	H 60	6.8	-27.3	ムクノキ	落葉 広葉樹	36.4	8.0	0.6010		小高木	
C	119	C 336	11.6	-20.7	ヤブツバキ	常緑 広葉樹	6.3	3.4	0.0077		小高木	
C	123	C 341	14.2	-17.3	ヤブニッケイ	常緑 広葉樹	0.8	1.7	0.0001		小高木	
C	116	C 342	15.8	-19.1	ヤマグワ	落葉 広葉樹	0.9	1.8	0.0001		小高木	
C	31	H 51	-0.2	-10.1	ヤマモモ	常緑 広葉樹	67.1	10.7	2.7240		高木	
C	174	H 47	19.3	-23.5	ヤマモモ	常緑 広葉樹	17.0	7.5	0.1230		小高木	



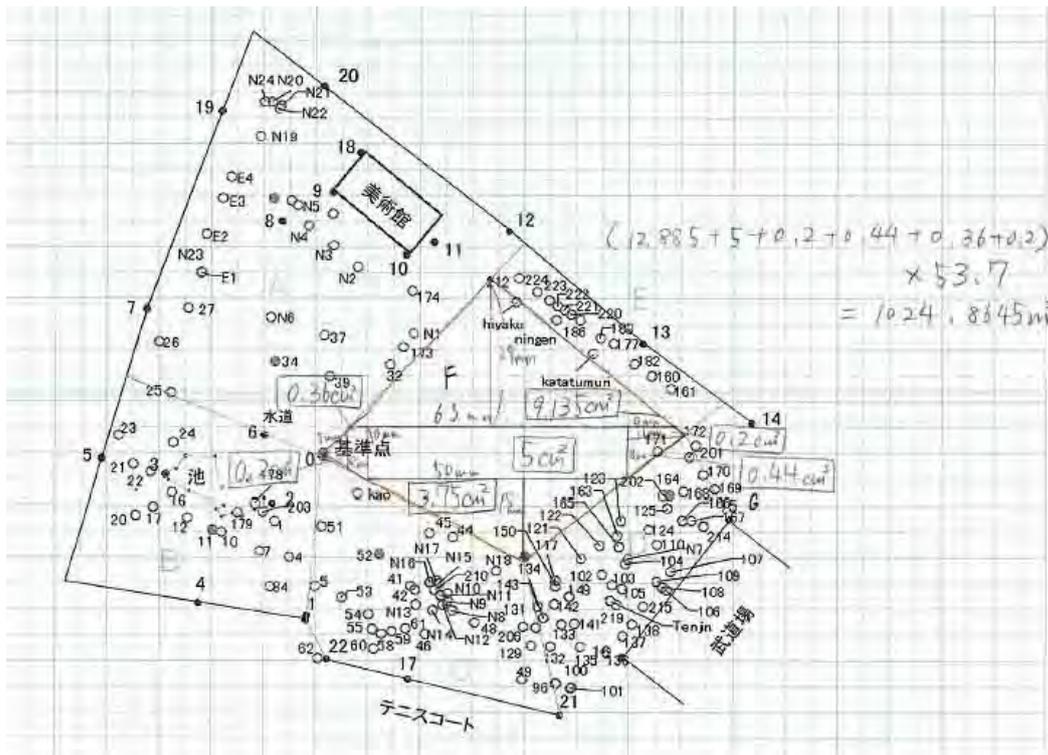
Cエリア 二酸化炭素蓄積量とエリア面積

天神の森・樹木データ												
エリア	DataID	テープ番号	位置 (m)		樹種	常緑 落葉	広葉樹 針葉樹	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	二酸化炭素 蓄積量 (t)	備考	高木/小高木
			東西	南北								
D	83	H 105	38.6	-18.1	アカマツ	常緑	針葉樹	22.6	17.0	0.3504		高木
D	85	C 346	39.5	-13.5	アカマツ	常緑	針葉樹	41.2	17.0	1.1641		高木
D	181	H 118	29.8	-17.2	クロガネモチ	常緑	広葉樹	1.4	11.0	0.0013	H117同株	高木
D	76	H 117	29.8	-17.2	クロガネモチ	常緑	広葉樹	3.6	4.5	0.0033	訂正	小高木
D	185	H 112	42.6	-13.5	クロガネモチ	常緑	広葉樹	18.9	6.5	0.1315		小高木
D	66	H 142	29.7	-20.4	クロマツ	常緑	針葉樹	31.0	10.0	0.3887		高木
D	2	H 201	47.8	0.0	クロマツ	常緑	針葉樹	43.0	14.0	1.0450		高木
D	91	H 214	49.1	-9.2	クロマツ	常緑	針葉樹	31.9	14.0	0.5754		高木
D	84	H 104	38.9	-14.7	クロマツ	常緑	針葉樹	26.2	15.0	0.4155		高木
D	73	H 141	32.5	-23.2	クロマツ	常緑	針葉樹	40.2	15.0	0.9790		高木
D	67	H 133	30.8	-23.3	クロマツ	常緑	針葉樹	41.3	16.0	1.1024		高木
D	78	H 137	38.7	-24.9	クロマツ	常緑	針葉樹	37.5	16.0	0.9093		高木
D	74	H 149	31.7	-19.4	クロマツ	常緑	針葉樹	30.6	16.0	0.6050		高木
D	3	H 162	48.7	-1.3	クロマツ	常緑	針葉樹	24.5	16.0	0.3890		高木
D	86	H 165	38.1	-12.3	クロマツ	常緑	針葉樹	26.4	16.0	0.4510		高木
D	90	H 167	47.6	-8.6	クロマツ	常緑	針葉樹	52.5	16.0	1.7820	動物カメラ7	高木
D	5	H 169	51.2	-4.5	クロマツ	常緑	針葉樹	43.4	16.0	1.2170		高木
D	4	H 170	49.6	-2.6	クロマツ	常緑	針葉樹	40.3	16.0	1.0490		高木
D	81	H 102	36.1	-16.3	クロマツ	常緑	針葉樹	38.5	17.0	1.0157		高木
D	82	H 103	37.2	-17.7	クロマツ	常緑	針葉樹	49.5	17.0	1.6810		高木
D	95	H 106	44.4	-18.4	クロマツ	常緑	針葉樹	31.1	17.0	0.6637		高木
D	88	H 110	43.1	-12.0	クロマツ	常緑	針葉樹	42.8	17.0	1.2577		高木
D	176	H 113	42.6	-13.2	クロマツ	常緑	針葉樹	39.2	17.0	1.0523		高木
D	11	H 123	39.0	-9.0	クロマツ	常緑	針葉樹	38.4	17.0	1.0120		高木
D	87	H 124	41.9	-9.8	クロマツ	常緑	針葉樹	36.2	17.0	0.8983		高木
D	68	H 132	29.3	-26.4	クロマツ	常緑	針葉樹	41.9	17.0	1.1990		高木
D	72	H 135	33.2	-26.4	クロマツ	常緑	針葉樹	43.9	17.0	1.3273		高木
D	77	H 136	36.6	-27.0	クロマツ	常緑	針葉樹	42.8	17.0	1.2577		高木
D	79	H 138	39.9	-23.2	クロマツ	常緑	針葉樹	35.2	17.0	0.8507		高木
D	89	H 166	46.4	-8.5	クロマツ	常緑	針葉樹	31.8	17.0	0.6930		高木
D	6	H 168	47.1	-5.0	クロマツ	常緑	針葉樹	38.7	17.0	1.0267		高木
D	12	H 122	36.2	-12.5	クロマツ	常緑	針葉樹	59.6	18.0	2.5813		高木
D	7	H 202	44.4	-5.5	クロマツ	常緑	針葉樹	50.4	18.0	1.8454		高木
D	8	H 164	45.3	-5.6	クロマツ	常緑	針葉樹	9.5	4.5	0.0164	動物カメラ10	小高木
D	177	H 111	41.0	-13.5	クロマツ	常緑	針葉樹	30.5	6.5	0.2445		小高木
D	1	H 171	43.6	0.8	クロマツ	常緑	針葉樹	49.2	7.0	0.6820		小高木
D	9	H 125	45.1	-7.1	クロマツ	常緑	針葉樹	20.3	9.0	0.1500		小高木
D	65	H 134	28.4	-22.4	クロマツ	常緑	針葉樹	30.0	9.0	0.3274		小高木
D	201	H 218	41.4	-20.7	サザンカ	常緑	広葉樹	4.7	2.5	0.0032	H215同株	小高木
D	97	C 295	37.9	-20.4	サザンカ	常緑	広葉樹	4.1	2.5	0.0024		小高木
D	96	H 215	41.4	-20.7	サザンカ	常緑	広葉樹	5.3	3.5	0.0055		小高木
D	199	H 216	41.4	-20.7	サザンカ	常緑	広葉樹	5.4	3.5	0.0059	H215同株	小高木
D	200	H 217	41.4	-20.7	サザンカ	常緑	広葉樹	8.5	3.5	0.0142	H215同株	小高木
D	94	H 109	43.1	-17.1	スギ	常緑	針葉樹	11.6	5.5	0.0296		小高木
D	93	H 155	43.8	-17.9	スギ	常緑	針葉樹	12.6	8.0	0.0513		小高木
D	92	H 107	44.9	-15.8	スギ	常緑	針葉樹	20.8	9.0	0.1569		小高木
D	178	H 116	29.9	-17.9	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	1.9	1.7	0.0003	H150同株	小高木
D	186	H 144	27.6	-20.8	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	1.7	1.7	0.0003	H143同株	小高木
D	190	H 148	27.6	-20.8	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	1.3	1.7	0.0002	H143同株	小高木
D	188	H 146	27.6	-20.8	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	3.8	2.5	0.0020	H143同株	小高木
D	189	H 147	27.6	-20.8	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	3.4	2.5	0.0016	H143同株	小高木
D	75	H 150	29.9	-17.9	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	2.0	2.8	0.0006		小高木
D	180	H 99	31.9	-32.3	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	6.2	3.5	0.0076	H101同株	小高木
D	64	H 143	27.6	-20.8	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	20.7	4.5	0.1094		小高木
D	187	H 145	27.6	-20.8	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	3.7	5.0	0.0039	H143同株	小高木
D	70	H 101	31.9	-32.3	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	19.3	6.5	0.1364		小高木
D	13	H 121	33.8	-14.3	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	45.2	7.5	0.8660		小高木
D	192	H 154	39.0	-7.1	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	27.7	7.5	0.3250	H153同株	小高木
D	191	H 153	39.0	-7.1	ソメイヨシノ	落葉	広葉樹	37.8	8.0	0.6450		小高木
D	195	H 139	36.8	-23.2	ミミズバイ	常緑	広葉樹	28.1	10.0	0.4473		高木
D	196	H 140	36.8	-23.2	ミミズバイ	常緑	広葉樹	22.3	9.0	0.2537	H139同株	小高木
D	71	H 100	32.1	-32.3	ムクノキ	落葉	広葉樹	21.7	8.5	0.2274		小高木
D	179	H 98	30.0	-31.7	ユズリハ	常緑	広葉樹	0.9	1.7	0.0001	H96同株	小高木
D	184	H 97	30.0	-31.7	ユズリハ	常緑	広葉樹	20.2	4.5	0.1038	H96同株	小高木
D	69	H 96	30.0	-31.7	ユズリハ	常緑	広葉樹	15.1	7.0	0.2580	訂正	小高木

エリア	DataID	天神の森・樹木データ			樹種	常緑 落葉	広葉樹 針葉樹	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	二酸化炭素 蓄積量 (t)	備考	高木/小高木
		テープ番号	位置(m)									
			東西	南北								
E	202	C 297	45.7	9.6	アカマツ	常緑	針葉樹	3.3	2.5	0.0011		小高木
E	194	H 184	36.0	17.1	クロマツ	常緑	針葉樹	2.2	3.0	0.0006		小高木
E	98	C 296	45.4	9.6	シラカシ	常緑	広葉樹	18.1	7.0	0.1300		小高木
E	99	H 160	42.8	11.5	シラカシ	常緑	広葉樹	20.0	7.5	0.1700		小高木
E	101	H 177	37.8	16.0	シラカシ	常緑	広葉樹	17.6	8.0	0.1400		小高木
E	100	H 182	40.6	13.2	シラカシ	常緑	広葉樹	20.6	8.0	0.1924		小高木
E	102	H 183	36.0	16.8	シラカシ	常緑	広葉樹	25.9	8.0	0.3043		小高木
E	109	H 212	25.2	25.2	シラカシ	常緑	広葉樹	25.2	8.5	0.3056		小高木
E	203	C 298	32.2	20.1	ヤマモモ	常緑	広葉樹	3.6	2.8	0.0021	C220同株	小高木
E	193	H 185	33.4	19.3	ヤマモモ	常緑	広葉樹	3.9	3.0	0.0026	H186同株	小高木
E	107	H 223	29.3	22.1	ヤマモモ	常緑	広葉樹	5.4	3.0	0.0050		小高木
E	204	C 299	29.3	22.1	ヤマモモ	常緑	広葉樹	5.3	3.0	0.0048	C223同株	小高木
E	103	H 186	33.4	19.3	ヤマモモ	常緑	広葉樹	4.3	4.0	0.0042		小高木
E	106	H 222	30.4	21.3	ヤマモモ	常緑	広葉樹	3.7	4.0	0.0031		小高木
E	105	H 221	31.3	20.7	ヤマモモ	常緑	広葉樹	6.9	4.5	0.0122		小高木
E	108	H 224	27.8	23.3	ヤマモモ	常緑	広葉樹	8.1	4.5	0.0167		小高木
E	104	H 220	32.2	20.1	ヤマモモ	常緑	広葉樹	5.3	5.5	0.0088		小高木



D, E エリア 二酸化炭素蓄積量とエリア面積



	二酸化炭素蓄積量 (t)	本数			面積 (m²)	単位当たりのCO ₂ 蓄積量		備考
		全体	小高木	高木		本数 (t/本)	面積 (t/m²)	
A	28.4972	33	24	9	1489.75	0.864	0.019	
B	20.6019	27	18	9	844.16	0.763	0.024	
C	26.5938	46	25	19	757.98	0.578	0.035	枯れ2本
D	35.9986	65	33	32	522.60	0.554	0.069	
E	1.3033	17	17	0	258.62	0.077	0.005	
F	0.0000	0	0	0	1024.86	0.000	0	
G	0.0000	0	0	0	80.00	0.000	0	
合計	112.9949	188	117	69	4977.98	2.836	0.153	
				枯れ+2				

全エリアの二酸化炭素蓄積量とエリア面積

研究した児童・生徒名

<天神森での二酸化炭素固定量調査班>

3年 竹内理人 苺和悠也 山本康誠

2年 朝比奈奎人 池谷風音

1年 壬生久葵 森川敦仁 矢崎千尋 碓氷海翔 陳瞳 辻直将 吉岡称
岩邊夕佳 橋本梨湖

<天神森で活動する動物と環境との関係調査班>

2年 今井正太朗 山田青

1年 加藤直輝 鈴木葵 鈴木伊織 川邊嵩文 藤澤侑世 鈴木結子

小学6年 石埜裕大 小林優斗 永田琉菜 林田萌伽 伊藤徳孝
杉田孝允 廣瀬万奈美

静岡大学教育学部附属浜松小・中学校トップガン
2017年8月